

月刊

ORANGE SUNSHINE

3

2025 Vol.49

- ・一回生練習試合
- ・つま恋
- ・OB総会 & 30周年記念パーティー
- ・常笑気流

つま恋

TEAM SPONSOR LINK



RS HOME



アイフル
ホーム徳島



WAKACHIKU

若築
建設

制作者：三好怜、横山優華

一回生チーム練習試合

先日、流通科学大学にて、社会人クラブチームである左大文字と関西の大学生で構成された有志チームとの練習試合・合同練習が開催されました。3月に行われるあかつきカップに向けた、とても貴重な対外試合になったと思います。試合の実施に尽力してくださった方々に今一度感謝申し上げます。この遠征で得た技や知識をしっかりと吸収し、あかつきで勝利をつかみ取るために精一杯活動して参ります。引き続き一回生チームの応援よろしくお願いいたします！

●試合結果

第1試合 vs有志チーム 4-2 win
第2試合 vs左大文字 1-1 even



コメント



田中 幹人 左大文字(16期OB)

左大文字ラクロスクラブ兼OBの幹人です。試合をさせて頂きありがとうございました。

試合を行うこととなった経緯は、OB理事会でヒロキに試合提案をしたところ快く受け入れてくれたことがきっかけです。

1年生はクロスワーク、パスキャッチ力等の技術力が高く、グラボーへの寄りも素晴らしいと感じました。

特に太陽君のプレーが印象に残っています。1対1だけではなく、シュート力、クロスワーク、グラボー総じてです。

ただチームの印象は試合の入りが悪く感じましたが、2試合目の関西有志戦では攻める意識が強く、1試合目と同じチームなのか?と思えるような感じを受けました。

1試合目から攻める意識を持って！
これからの成長に期待しています。

コメント

久しぶりの実戦ということもあり、なかなか歯車が噛み合わない場面もありましたが、冬練を通じてチームの成長を実感できました。しかし、同時に多くの課題も浮き彫りとなり、改めて気を引き締める必要があると感じています。社会人の方々との交流を通じて、自分たちのラクロスIQの未熟さも痛感しました。あかつきカップでは、コーチや上回生への感謝を形にするためにも、31期生一丸となって優勝を目指します！応援よろしくをお願いします。

(G/今泉直也/新2年)



今回の練習試合で感じたことは、ウィンターからの成長があまり感じられないということです。上回練にはいい、2ヶ月近くたっていたため、自分の中では少しは成長している感覚はあったのですが、今回の試合では特に成長を感じられるようなプレーはなく、自分の実力に危機感を覚えました。特にグラボは全体的にウィンター前よりも、あたりが弱いのではないかと感じ、取るべき場面で取れていないことが多くありました。あかつきまで時間は少ないですが、ウィンターからの成長を感じられるような試合ができるように頑張りたいです。

(DF/勝部佑真/新2年)

コメント

今回の練習試合では大人の方と接する機会が多く、自分にとって良い経験になりました。特に徳大で最初に背番号77をつけていたOBのロンゲの方とも話をすることができたことが1番印象に残っています。試合の内容ではパスミスや、グラボのミスが目立ってしまったのでそこが課題です。あかつきまで日もあまりないので今できることをして良い結果に繋がるようにしたいです。

(DF/山口高輝/新2年)



あかつき大会前の最後の試合ということでまだまだ自分の実力が不足していることに痛感させられました。とくにゴールに向かう意識が弱いこととパス、キャッチミスが多かったので改善していきます。しかしシュートを打てそうな場面は増やせるのでその点に関して良かったと思います。あかつき大会まで残り少ないですができることをしてチームに貢献できるよう頑張ります。

(OF/吉牟田悠太/新2年)

つま恋

2月24日～26日に開催されたつま恋SPRING CUPに参加致しました。新体制になり初めての全国大会で、実戦経験だけでなく講習会や交流会を通して多くのことを得られ、有意義な3日間となりました。一方でブロックで5位という結果に終わり、決勝トーナメント進出はできませんでした。スーパーカップやリーグ戦に向けて気を引き締め直し、練習に励んでいきます。

GAME RESULTS



vs 福岡A

0-2

lose



vs 日体A

1-1

even



vs 東京B

3-1

win



vs 大阪経済

1-2

lose



vs 東京学芸

1-5

lose



vs 九州B

4-0

win

コメント



勝率7割。これはぼくがつま恋で目標にしてたF0の勝率です。実際のところきちんとポゼッションまでいけたのは、全試合通しても少なくチームに貢献できるフェイスオフアワーではなかったかなと思います。しかし、今回のつま恋ではずっと自分の中の課題である後処理だけでなくウィングとの連携や負けた時の対応などの課題が浮きぼりになりました。これらを武者や練習通して一つずつ改善していきます。そして、チームを勝たせるフェイスオフアワーに！！

(#14/F0/布施光基/新3年)

今回のつま恋での大会では、「ベスト12入り」を目標にアグレッシブなディフェンスを意識して臨みました。選出には至りませんでした。積極的にプレッシャーをかけ、毎試合でボールダウンを奪うことができ、対人に対する自信を深められた機会となりました。

また、他地区との対戦や関東1部同士の決勝を見て、「もっと強く、上手くなりたい」という思いを強くしました。技術・フィジカル・チーム力の課題を痛感したからこそ、この経験を糧にさらなる成長を目指します。

(#3/DF/野島栄人/新4年/副主将)



コメント



まずは目標としていた「ベスト4」を達成できずとても悔しいです。試合を通してオフェンスの決定力の無さが目立ち、ロースコアゲームが多かったです。個人としても4得点はしたものの全てゴール前で取っただけなのでまだまだだなと実感させられました。しかし他地区に通用した部分もあったため、このつま恋で得た経験を活かし、チーム、個人ともにさらに進化していければと思います。

(#98/AT/佃琉央/新4年/副主将)

私自身3回目のつま恋でしたが、慌ただしい3日間となりました。しかし、1年生が多い中でも役割分担を決め、ライブ配信や動画アップを効率よく行えたのは良かったと思います。1年生TSと過ごしたことで仲が深まり、チームとしての結束も強まったと感じます。これから始まるリーグ戦でも、TS全体でプレイヤーを支えられるよう頑張っていきます！

(TS/高橋彩/新4年)



ギャラリー



OB総会 & 30周年記念パーティー

3月8日にOB総会が行われました。新旧主将やコーチらによる活動報告や収支報告があり、現地にて69名、zoomにて4名が参加しました。質疑応答を通した様々な意見交換も行われ、各々がチームを見直す機会となりました。

OB総会の後には、創部30周年を記念したパーティーが開催されました。こちらは現地にて81名、zoomにて1名が参加し、交流を深めました。現役にとってはなかなか話す機会のない先輩方にもお話を伺うことができ、大変貴重で有意義な時間だったと思います。

ご多忙のところご参加賜り、ありがとうございました。



主将コメント



山本 紘希 #69/G/2025年度主将

先日はOB総会並びに30周年記念パーティーにご参加いただき、誠にありがとうございました。今年度のチームは「凡事徹底」「俺がやる」「熱狂」の3つを軸に活動してまいります。OB総会では多くのご質問をいただき、改めてチーム方針を見直す良い機会となりました。記念パーティーでは、懐かしい話や熱いラクロス談義に花が咲き、OBの皆さまのエピソードを聞くたびに、「この部をさらに強く、素晴らしいチームにしたい」と決意を新たにしました。まだ未熟な点も多いですが、リーグ戦開幕に向け、チーム一丸となって頑張ります。今後ともご支援・ご声援のほどよろしくお願いたします。

Mishiro Takahiro

Next...

山内滉大(21期)

(20期)



三代 尚弘



常笑気流

【学生時代の思い出】

ラクロス部を通じて得たのは「仲間」と「マインドセット」です。特に、運営の視点を持つことの重要性を学びました。4回生の時、僕は幹部と中四国学生連盟副委員長を兼任し、徳大が継続して強いチームになるには、運営側に人材を送り込む必要があると考えました。当時、岡山大学は学連執行部や事務局に多くのOB・OGを輩出し、地区全体に影響力を持っていました。一方、徳大は運営に関わる部員が少なく、この差がチームの安定性にも影響すると感じました。そこで、学連などに積極的に人を送り出すことを伝統にしようと決意しました。

その中で最も思い出があるのが「あかつきカップ」の設立です。ラクロス協会本部で提案し、新人戦のその先の舞台を形にできたことを誇りに思います。大会名には「暁=夜明け」という意味を込め、フレッシュマンがここで成長し、チームや地区を照らす存在になってほしいと願いました。

現役の皆さんも、ラクロス部での経験を通じて大きく成長し、人生の糧となる何かを得られることを願っています。

【近況報告】

卒業後、新潟大学医学部に進学し、現在は大阪大学医学部附属病院で初期臨床研修医をしています。総合診療科を志望し、いわゆるホスピタリストを目指しています。日々、命と向き合う仕事は大変ですが、毎日が刺激的で、多くの学びがあります。現在、「健康寿命を伸ばすこと」を目標に掲げ、病院の外でも活動を始めました。さまざまな人のウェルビーイングを実現するために、医療の枠を超えたアプローチを模索しています。振り返れば、ラクロスを通じて得た経験が、こうして新しいことに挑戦する原動力になっています。今後も学び続け、成長していきたいと思っています。